

カレンダー絵日記

宇部市 中野 朋子

絵日記を描き始めて4年目になった。きっかけはテレビ番組で紹介された1冊の本『スケッチジャーナル』（ハヤテノコウジ著）。毎日の出来事をスケッチしたものが収載されていて興味をもったので自分もやってみようと思った。

さっそく描き込む手帳の類を探してみたが適当なサイズのものが見つからなかった。そうしているうちに年の瀬となり自宅倉庫の屋根修理をしてもらった業者さんから立派なカレンダーを頂いた。カレンダーとしては大きめだったので「この余白に絵を描いてみよう」と思いついた。一日分の余白が6×6センチなので広すぎず狭すぎずのスペースだった。こうして2022年元旦から私のカレンダー絵日記がスタートした。

絵日記にはその日の出来事（食べたもの・買ったもの・見つけたもの・いただいたもの・自分や家族の姿など）を描く。描くものが見つからない日はたいてい飼い犬の姿や夕飯の絵となる。鉛筆で下書きをしてからペン描きをして色鉛筆で色をつけ最後に簡単な言葉を添える。15～20分の作業だ。

絵日記を始めてからいくつかの発見があった。何を描くかを決めるために一日を振り返るようになった。画題を探すことが習慣となり、庭の木や草花、空や雲、道ばたの小さな虫や鳥にも目を留めるようになった。36色の色鉛筆で時には色を重ねながら塗るのだがこれが不思議と癒しになる。そういえば子供のころ塗り絵遊びが好きだったなあ。

毎月のカレンダーがだんだん埋まってくると嬉しくなってくる。ひと月分が完成すると達成感がある。見返すと自分で描いたものなのに面白くて笑ってしまうことがある。

1年間続いたので冊子を作成した。友人や職場のスタッフに好評だったので調子にのり2年目も冊子を作った。そしてこのたび3冊目が出来上がった。

絵日記を読み返して気がついたことがある。「そうそう、こんなこともあったなあ」と懐かしくなる。読み終えた本の絵と感想もかいてあるので読書記録にもなっている。意外だったこともある。悲しそうな自分の顔の絵に「今日は残念なことが



カレンダー絵日記



カレンダー絵日記冊子 vol.1 ~ 3



ある日の絵日記

あったので早く寝よう」と添えてあるが何が残念だったのか覚えていない。描くことでストレスの発散が上手く出来たのだろう。帰省した日は高齢の両親の姿も出てくる。映画を観たことや旅の思い出もこのスペースに残る。財布やカバン、電化製品を買い換えたことも描いてあるので、この冊子をみれば日々の生活の大概は記録されている。だから大切な宝物になった。

絵日記仲間を作りたくなってスタッフや業者の方に絵日記を描いてみませんか？と声をかけたところ

5 人がチャレンジしてくれた。他の人の絵日記を見せてもらうのも新鮮だった。ひと月続いたところで 4 人からしばし休憩したいとの申し出があり、1 人だけ 1 年間続けてくださった。仲間は随時募集している。

私もいつまでこの絵日記を続けるかわからないけれど人生百年時代、日々の出来事を楽しく記録していけたらいいなと思っている。

